



PROFILE Takahiro Fukutomi

平成22年 4月 総務省採用
大臣官房秘書課

平成23年 4月 自治財政局交付税課
10月 群馬県総務部市町村課

平成25年 4月 群馬県産業経済部観光局観光物産課
10月 自治行政局選挙部政治資金課収支公開室

平成27年 1月 現職

自治行政局行政課
福富 貴大



PROFILE Shizuko Hara

平成12年 4月 自治省採用
大臣官房国際室

平成13年 1月 総務省自治行政局自治政策課国際室

平成14年 4月 群馬県環境生活部自然環境課

平成15年 4月 群馬県総務部国際課

平成16年 4月 地方公務員災害補償基金補償課

平成20年 4月 地方公務員災害補償基金総務課予算係長

平成21年 4月 自治体国際化協会総務部企画課主査
兼 総務課主査

平成25年 4月 総務省自治行政局選挙部政治資金課
支出情報開示室主査

平成26年 4月 現職

自治行政局公務員部公務員課
給与能率推進室定員管理係長
原 志津子

多様な経験×多様な交流 =無限の可能性

仕事内容
よりよい地方自治の姿を目指して

私が所属する自治行政局行政課では、地方行政の運営に関する制度の企画立案や地方行政の総合的な調整等、地方自治の根幹に関わる業務を行っています。具体的には、地方自治に関する基幹的な事項を定めた地方自治法の解釈等を通じ、地方行政が円滑に運営されるよう取り組んでいます。

また、我が国の人口は今後急速に減少するとされており、約50年後には人口が8,700万人程度になるという推計もあります。この様なかつて経験したことがない急激な人口減少により、人口分布の極端な不均衡化や行政サービスの低下等が懸念されています。

人口減少社会に的確に対応するための三大都市圏及び地方圏の行政体制のあり方とはどうあるべきか。行政課では、こうした今後の地方行政のあり方についても検討をしており、日々熱い議論が繰り返されています。

地方行政の現場で起こる身近な問題から将来の国家的な問題まで、今日も幅広いテーマに全力で取り組んでいます。

総務省について新規採用者へ伝えたいこと
可能性を引き出す環境

総務省に入省してから早くも5年が過ぎようとしています。この5年という期間を少し振り返ってみるだけでも、人件費予算に係る財務省との折衝業務、総額約17兆円の地方交付税の算定業務、群馬県庁への出向、政治資金収支報告書の公表業務、そして地方自治制度の運営業務と、多岐に渡る業務経験の機会を与えていただいております。総務省の業務の幅広さを肌で実感しています。

また、総務省は自治体との交流も盛んであり、上述のとおり、私も2年間群馬県庁でお世話になりました。一方、総務省へも全国の自治体から出向されている方が多くおり、総務省にいながらも様々な地方の「想い」を感じることができます。

このように多様な経験と交流の機会があることは、総務省の大きな特徴だと思います。総務省には様々な個性と魅力を持った職員の方が多くおりますが、それはこのような環境だからこそだと思います。ここには無限の可能性を引き出してくれる環境があります。

Private Time

私はとにかくじっとしていられないタイプであり、暇を見つけてはどこかに出かけています。春・秋は登山、夏は海にキャンプ、冬はスノーボードと四季折々のアウトドアを楽しんだり、年中通して旅行や温泉巡りをしています。そのため、財布の中は若干寂しく(名前は福富ですが…)なっていますが、心身の方はフレッシュされ、仕事への原動力となっています。



とある一週間

- 月曜日**
月曜日恒例の課内打合せ。予定を確認し、今週も熱い一週間が始まります。
- 火曜日**
議員事務所からの説明要求。参考になりそうな資料を調製し、上司と一緒に議員会館へ。
- 水曜日**
第31次地方制度調査会の専門小委員会に出席。地方制度に関する最先端の議論を肌で感じます。
- 木曜日**
翌日の国会における、総務大臣答弁に関する資料の作成。早さと正確さを心がけます。
- 金曜日**
待ちに待った金曜日!法令協議に関する勉強会の後、職場の同僚と夜の街へ。

社会が変わる!を 体感しませんか?

仕事内容
職員数が語る社会の姿と時代の流れ

全国の地方公務員の数が現在どれくらいか、皆さんはご存じですか?平成26年4月現在で、約274万人。1年前と比較すると約9千人減少しました。私が担当する定員管理調査で、昭和50年からずっと調査しています。これを数字だけ眺めていても、特に楽しくも何ともありません。けれど、消防、福祉、教育といった分野別に増減の変遷とその背景となった制度改正や社会事情などを細かく見ていくと、その時々地方行政が果たした役割が見えてきます。まるで、グラフから、ある時代の光景が浮かんでくるかのようで、今自分が扱っている数字も、社会の有り様を語る大事なパーツだと思うと、時代の歩みの中にいることを実感します。今、地方財政が厳しい中、各自治体は、豊かな社会を創るため、様々な工夫をしながら必要な行政サービスを提供できる体制を整えています。数から俯瞰しつつ、そのお手伝いをする、そんな地方行政への携わり方もあります。

総務省について新規採用者へ伝えたいこと
多様性を受容し、変革を楽しめますか?

「働く」とは、ただ仕事をするということだけでなく、仕事を通じて得られる人間関係も含め、豊かに生きる術を得ることです。総務省人生では、人事交流で自治体の方々とも机を並べて仕事するのが常です。この15年間で、本当に貴重な出会いがあり、今も公私にわたり関係が続いていることは何よりの財産と思っています。

もう一つ、豊かに生きる術に、ワークライフバランスの充実があります。総務省でも急務の課題となっており、私自身も、小学5年生の息子を育てながら、スーパーイクメン夫の支えを軸に、上司・同僚、親兄妹、ご近所ママ達といろんな人に助けられながら、毎日試行錯誤の真っ只中です。ワークライフバランスの実践は、官民間問わず日本全国でいろんな取組が進んでいますが、総務省でも今まさに変革の真っ只中です。鍵は多様性と変革を楽しめる気概です。霞ヶ関で、前例や慣習に捉われず、その実践者になりたい!という志のある方、お待ちしております。

とある一週間

- 月曜日**
定員管理調査のとりまとめ方法効率化のため、改善策に係内で話し合ってから整理。来年に活かします。
- 火曜日**
国会質問への対応発生。チームワークで一気に答弁作成作業を進めます。
- 水曜日**
定員管理調査のデータ分析。視点を変えてデータを見ていくと、また新たな発見があります。
- 木曜日**
本日はテレワーク勤務。家で一人静かに業務に没頭です。勤務時間終了と同時に息子と一緒に習い事へ。
- 金曜日**
定員データの分析結果をわかりやすく資料にまとめ、補佐・室長と協議。議論が勉強になります。

Private Time

昨年、スカッシュを習い始めました。子供が習い始めたのをきっかけに、夫婦でもスクールに通い始めました。どんなに疲れていても、週末に、スカッシュで汗を流すと、すっきり爽快。息子にも夫にも負けられないぞ、と思うとやる気も楽しみも増えます。

